

● シーン3 / 平日の夜 妻の不満

毎日の忙しい生活のなかで、どうしても時間の有効活用ができない場面もあると思います。それもどちらかが犠牲を払わなくてはならなくなると、精神的にも肉体的にも負担になります。

共働きかどうかにかかわらず、子どもの世話から食事の準備や洗濯まで、女性が一手に担っている傾向は確かにあります。子どもはある程度の年齢になると、自分のことは自分でできるようになります。しかし、男性のなかには、何かしてもらうことにすっかり慣れきっている人もいます。時間の使い方を工夫し、積極的に何でも自分で行うよう、努力してみよう。

● 編集委員の意見

F 妻は子どものために早く帰宅して持ち帰り残業、夫は会社で残業。おまけに夫だけが残業代をもらっているなら、不公平ですよ。

M いまは、持ち帰り残業できない職場もあるんじゃないですか。データの持ち出しには、どこでも結構を使っていますよ。

H 二人とも残業が多い職場にしていると大変かも。夫か妻のどちらかが、残業が少ない仕事を選ばなくてはならなくなる可能性がありますよ。

F 仕事で飲み会にいかなくてはいけなくなった場合、子どもがいると難しいので、女性だと普通は断ると思います。男性は家庭の事情で飲み会を断ることもってあるんですか？

U どうしてもというときは断ると思いますよ。家族が病気の場合とか。でも一般的にはいくと思いますね。

H 飲んで帰って気が大きくなった夫が、持ち帰り残業している妻に「おい、風呂」「メシ」と言ったら大ひんしゆくですよ。

M でも、いまだに、共働きの妻に「風呂」「メシ」と言う男性は少ないんじゃないですか。

K 妻は帰宅後、子どもの面倒を見てその後持ち帰り残業しているわけだから、夫には「ご飯を温めるくらいは自分でやって」と言いたいですよ。

U ご飯もおかずもレンジで「チン」の時代だし、お風呂だってボタンひとつ押して追い炊きすればいいのだからね。

H 「自分のことは自分でやって」という突き放した言い方には、やさしさが感じられないように感じてしまうんですが、どうでしょう。

K でも実際、夫から「お茶！」って言われたら「自分のことは自分でやって！」と言ってしまうなあ。

H 夫とか妻とか関係なく、お互い思いやりの気持ちがあれば、「やって欲しい」と言われたら、やってあげたいと思うのが自然な感情じゃないですか。二人それぞれが、そのように思いやっているのが理想だと思いますよ。

U ただ単に「やって」じゃなくて、相手に行動を促すような言い方をすることが大切なのは。そういう言い方が実際にできるかどうかは、なかなか難しい問題ですが。

U 家事・育児が女性だけの仕事とされていることが問題じゃないですか。「男性は仕事、女性は家事・育児」といった男女の固定的役割に縛られずに、思いやりの気持ちを持って、互いに助け合うことができたらいいですよ。

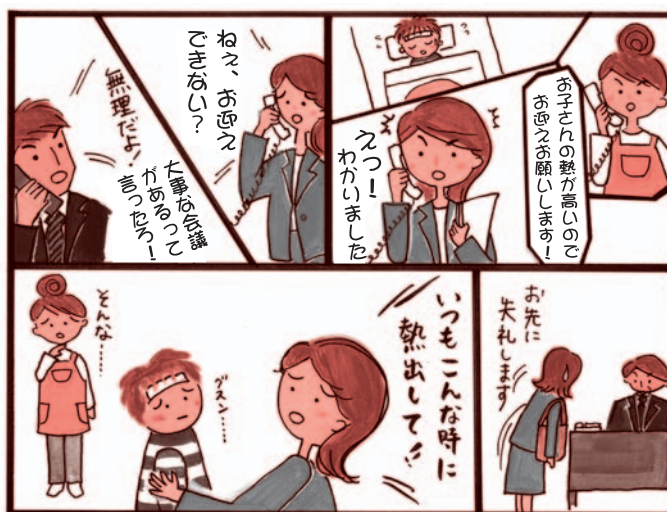
● シーン4 / 子どもの急病 父母の不満

突然の子どもの発熱で、どちらが迎えに行くか、もめたことはありませんか。会議中や接客中だったり、なかなか職場を抜けられないこともあります。でも熱を出して「うーんうん」唸っている子どもを放っておくことはできませんので、結局どちらかが迎えに行くことになりま

す。子育ては夫婦が協力して行うことが必要ですが、「男性は仕事、女性は育児」という固定的な役割分担意識がまだあり、今でも母親が迎えに行くケースが比較的多いようです。最近は共働きの家庭が多くなり、そのため、このような事例が多くみられます。仕事と家庭の両立を図るためにも、子育てに対して社会全体で支援する環境づくりが求められています。

シーン4

子どもの急病 父母の不満



● 編集委員の意見

M この場合、普通は妻が迎えに行くんじゃないですか。

K もし、シングル（一人親）だったら、女性・男性を問わず自分で迎えに行くしかないでしょ。お互